

4回目接種5カ月間隔

高齢者・基礎疾患ある人に

厚生労働省部会

厚生労働省の専門部会は25日、ファイザー社製とモデルナ社製の新型コロナウイルスについて、高齢者や基礎疾患がある人を対象とした4回目の接種に使えるように、使い方を定めた添付文書の改訂を了承した。3回目からの接種間隔は5カ月とした。

4回目の接種では、ファイザー製は1〜3回目と同じ量を接種し、モデルナ製は2回目までの半分の量を打つ。「ベネフィット（利益）とリスクを考慮する」と注意事項に明記した。4回目接種の有効性については、ファイザー製は、イスラエルで4回目接種を

した18歳以上の約70万人のデータがある。モデルナ製は18歳以上の約120人。しかし、高齢者や基礎疾患がある人のほかは、重症化を防ぐ効果が得られることを示すデータが十分ではなかった。こういった研究や海外での4回目接種の状況も踏まえ、高齢者や基礎疾

患がある人に効果があると判断した。

27日に開かれる別の分科会では、4回目接種を予防接種法上の特例の臨時接種に位置づけ、公費で費用を負担するかどうかを議論する。公費による接種の対象を高齢者や基礎疾患がある人に絞るかどうか、3回目からの接種間隔をどうするかなども決めるとみられる。対象を絞ることになれば、幅広い世代を対象に進めてきたワクチン戦略の大きな転換となる。

(市野塊)